

令和3年度 第2回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和3年12月17(金)午前10時00分～午前11時17分

2. 場 所 栃木市役所 議会会議室

3. 出席者

(構成員) 大川秀子 市長、青木千津子 教育長、後藤正人 教育長職務代理者、
福島鉄典 委員、西脇はるみ 委員、大橋孝子 委員、
舘野知美 委員、林慶仁 委員

(事務局) 増山 総合政策部長、横倉 総合政策部副部長兼総合政策課長、
名淵 教育次長、金井 参事兼教育総務課長
金井 参事兼学校教育課長、平山 グローバル教育推進室長、他担当職員

4. 内 容

(1)開 会

(2)あいさつ

○大川市長

お忙しい中、第2回総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。委員の皆様には日ごろから市政運営、教育行政にご協力ご支援をいただいておりますことを改めて御礼を申し上げます。

今年もあとわずかとなり、振り返ってみると昨年引き続きコロナの対応に悩まされた一年でありました。学校行事も思うようにできない中、皆様に工夫していただいてようやく一年が終わります。緊急事態宣言が9月いっぱい終わり、少しずつ元の生活が戻ってきています。本市の新規感染者も先日の2名の感染者が出るまで2カ月連続で0人であった。今後も自身はもちろんのこと、お子さんにも感染させないような工夫を考えて進めていきたいと思えます。

延期となっていた令和3年成人式を11月7日に皆様のご協力のおかげで無事開催することができました。また、来年1月9日には「^は二十歳の集い」と名称を変えて成人式を、感染防止対策を講じた上で安全・安心に開催する予定であります。成人式はやってもらってよかったという感謝の声をいただいておりますので今後ともご協力をお願いいたします。

本日は第3期教育大綱について、また、いじめの現状と対応について意見交換を行うので、よろしく申し上げます。

(3)協議・調整事項

(1) 第3期教育大綱の検討状況について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思っています。色々なご意見をいただいて内容を煮詰めていきたいと考えています。

○福島委員

今までの教育大綱は文字で並べることが多かったが、今回のこのようなA3資料の表現は大変わかりやすく良い。このような市民にもわかりやすい表現が大切である。また山本先生の教えの自分を愛すること、他人の尊重なども非常にわかりやすい内容になっていてよい。

○後藤委員

栃木市に来て山本有三先生の言葉は非常に印象が強かった。各小中学校の概要の中核に山本先生の文言があり、市全体として一体となった取り組みをしていて、この言葉は後世に残していきたいなと思っていた。人格の形成に直結するような言葉だと思うので、中核にあるのはよいと思う。

右上の市民憲章については、作成時に入れたい言葉をアンケート調査した際に、防災や文化や歴史等を入れてほしいという要望があった。そういった要望を組み込み、成文化してあります。その市民憲章の視点からこの教育大綱を見てもそれぞれの精神がそれぞれに生きているなど感じました。

この表の中に上手にわかりやすい構造になっていて、市民憲章の内容も含め栃木らしさが表現されている。

右の「生きる（生き抜く）力」は「生き抜く（生きる）力」がよいのではないか。また「学校・家庭・地域の連携（とちぎ未来アシストネット）」も「とちぎ未来アシストネット（学校・家庭・地域の連携）」はどうか。栃木らしさを協調したい。

○林委員

竹の表現を控えるとあるが、生きる力につながると思うので復活させては。

また、アシストネットと書いてあるから省略とあるが違和感を感じる。

○事務局

竹の言葉は戦後のラジオ放送の中で、困難や苦難が続く社会にあって、今後の社会の建て直しを担う国民を表現した言葉ととらえている。本市が全国に先駆けてアシストネット事業を立ち上げて、その際に竹を使用した。栃木市のインパクトや特色を強調するために、また、幅広い皆様にわかりやすい表現にするために竹の表現を控えた。山本有三先生には、路傍の石や竹以外にも数多の名言があるため、今後の策定懇談会においても今回いただいた意見も含めて検討させていただく。

○大橋委員

「グローバル・インクルーシブ社会」の項目の中の「多世代の価値観（高校生の考え）の反映」とあるが、高校生に特定してしまっている表現に見えますが、その意図はどのようなものか。

○事務局

本市の高校生に高校生蔵部として本市の街づくり活動をやっていることを指している。本市の特徴を表すものとしてこのような表現としたが、高校生だけの意見を反映するのではなく多世代の意見を反映させていく予定である。

○大川市長

「高校生”等”」と表現するとよい。高校生が栃木市の街づくりに参加し、一生懸命活動しているのは栃木市の特徴だと思う。若いうちから自分の街を考えていくという取り組みは素晴らしいと思う。自分の街に誇りをもって好きになる取り組みはこれからも広まってほしいと思っている。

○福島委員

農業高校、工業高校と特色のある高校があり、また特色のある取り組みについてメディアによく取り上げてもらっている。

○大川市長

工業高校の国体の時計、農業高校が生産した農産物を大平地域内の小中学校給食へ利用するなど各学校の特色を活かした取り組みをやっている。

○大橋委員

この表のどれも大切な言葉であり、どれも一つも欠けてはいけないと思っている。教育の大切なテーマは、私は「希望」だと思っている。どのような境遇であっても、学校に行ってしっかり勉強すればよい人生になるといった希望を持ってもらいたいと思っている。また、地域の人や家族にも学校がいい場所であれば希望を持てると思っている。希望が見えるような構想や理念が入ればよいと思う。

○市長

東京オリンピック水泳競技出場の池江選手が白血病と発表した際の記者会見で、「困難を乗り越えられたのはそこに希望という力があったからだ」とおっしゃっていました。私も希望が大切だと思う。災害の復旧やコロナ等どんな時でも市民の皆様に希望を持ってもらえるような行政を行いたいと思っている。

○青木教育長

策定懇談会を傍聴して感じたことが、県外生まれの委員さんから山本有三先生の問題意識、言葉はとても重要だと思うという意見が出て、山本先生の言葉の大切さ、今後も受け継いでいく事の重要性を再認識した。他にも、様々な時代を超えて、この令和の時代にも含蓄のある大切な言葉はたくさんある。その中で一番子どもたちに残したい言葉は何かと思うと、路傍の石の一節を選びました。

とちぎ未来アシストネットという事業名を、前面に出すことがふさわしいのかどうかと思うことはある。

(2) いじめの現状と対応について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんから質問、ご意見をいただきたいと思

ます。

○福島委員

昨日中学校へ学校訪問させていただいたが、いじめはあり、非常に増えていると先生から聞いた。全てをつかみ取ることはできないため、表面に出て来たときにいかに迅速に丁寧に対応するしかないとおっしゃっていた。その通りであると思う。

私もいじめ防止子どもフォーラムに参加したことがあるが、出席する生徒は優秀であるためいじめをするような子ではない。いじめは良くないといった内容ばかりではなく、いじめをすることでこういう報いや社会に出た後に自分に跳ね返ってくるといった弊害を並べるなどの教育をしていく必要があると思う。

行政もいじめが発覚した際に、教育委員会は知らなかったと悪者扱いされることが世間一般的にあるが、市長を中心に行政も「いじめはあったんだ」という認識で調査に入れる体制を作してほしい。

○市長

迅速な発見、対応が必要だし、見逃さずしっかりとした対応が必要だと思う。子ども自身がいじめに対して重大な問題意識を持ってもらうことが一番いいが、なかなかそうはいかないと思う。またフォーラムに出席する優秀な児童でも、そのフォーラムで学習した内容をクラスで広めてもらう、まとめ役になってもらうことによるいじめの問題解決につながる事例もあるため、頑張ってもらいたい。

解決には子どもたちの協力も必要であり、その中で何かあったときに先生に連絡し、みんなで解決できるようになれば良いと思う。

○青木教育長

いじめ防止子どもフォーラムのなかで「傍観者にならないようにしよう」という意見が結構多かった。子ども達の中でそういう意識が高まるのは良いと思っていて。また学校によって違うが、フォーラムに出席した代表生徒は全校集会などで学校全体にフォーラムの内容を共有する取り組みをしている。

○後藤委員

日光の陽明門の彫刻の中に5人の男の子がいて、真ん中の男2人がつかみ合いの喧嘩をしており、右の男の子が仲裁、左側二人の子は見て見ぬふりをしている。これは徳川家康が、子どもが嬉々として遊んでいる姿こそが世の中の平安そのものであり、決して傍観者になってはいけないということを表現させたものだと思う。それを今現在見てもこのいじめ問題に対して考えることがある。

無関心で、人と関わりあわない状態になってしまうと教育は成り立たないと思う。先生に助けを求める子はいても、自分たちで自力解決しようとしなくても問題だと思う。いじめと喧嘩はどこが違うかというと、子どもなりに区別けており、いじめは陰湿、人格否定、継続性がある。単発なものは喧嘩と分けている学生がいた。喧嘩ができない子どもが増えてきていると最近感じる。授業等における指導とあったが、先生と子どもの信頼関係、子どもと子どもの信頼関係の日頃からの構築が大切ではないか。教育に必要なのは信頼関係。授業や様々な行事を通じて関係を築ければ深刻ないじめ問題は少なくなるのではないか。

○市長

我々の頃は先生に頼ることではなく、子ども同士で解決してきた。今の時代がどのようになってしまったのか理解できない状況である。当時はいじめとってはなかったが、今の感覚からするといじめだらけだったと思う。少子化により子ども同士で遊ぶ機会が少なくなった、兄弟がいない等様々な要因があるのかと思う。時代の変化とともに我々も対応していかなければならないが、自己肯定感の育成、信頼関係の構築が大切だと思う。

○林委員

いのちの電話の利用について、もう少し周知や活用の促進をするのはどうか。電話ではなく、今はネットで調べられる時代なのでメールでの対応などもどうだろうか。

○事務局

学校教育課内でも主に臨床心理士やスクールソーシャルワーカーが対応している「あったか電話」を設けている。またいのちの電話の利用促進周知方法についても今後検討してまいります。

○市長

私の知り合いがボランティアでやっているそうだが、よく電話がかかってきて、長時間の対応となり、負担が多いことがあるそう。しかしながらいつでも電話に出られるようにしておかなければならないので大変だと思う。

○大橋委員

いじめはなくならないと思うし、あって当然なので、いじめを隠そうとするのではなく、表面化しやすい環境づくりが大切なのではないか。うまく学校の不満等も吐き出せるような環境づくりが大切。基本的に先生に様々なことに対応する余裕がないと思っている。日々の授業で精一杯で、いじめの対応はできない。もっと先生の人的配置を増やしてほしい。

また、担任の先生に対して信頼関係を持っていない子がたくさんいる。そのような中で素直にいじめについて話せないと思う。校内でいじめ相談窓口の先生を別に用意できたりすればよいのではないか。いじめはなくならないので、早期発見、対応が大切だと思う。

○事務局

おっしゃる通りだと思います。また、担任との信頼関係を構築できていない報告もあるため、担任以外の相談のできる先生に相談してもよいとしている学校もあるが、子ども自身が担任にしなければいけないと思っている子もいるため、相談先はいくつかあると周知する方法を検討してまいります。

また、すべての学校にスクールカウンセラーを常時ではないが配置している。多くの方に子どもの教育に携わっていただきたいと思うので引き続き検討をしてまいります。

○市長

誰かが聞いてやるというのが大切だと思う。

○西脇委員

私も娘が帰ってくると学校どうだったと聞くようにしていた。時代は変わったが、家族が子どもに関心を持って話を聞いてあげないといけないと思う。

○館野委員

子どもたちの話を聞いていると、多様性の尊重と言葉で聞いて理解していても、実際にどのように対応すればわからないと聞く。道徳で学んでも、どう行動してよいかわからないようである。

提案であるが、いのちの電話は名刺サイズの紙を全員に配っていると思うが、その他にも誰にも見られないトイレの個室とかに配置し、誰にも気づかれずに持って帰れるようにするのはどうか。

○事務局

検討させていただく。多くのレスキューの選択肢を用意できればと思う。

(4)その他

※事務局から今年度は今回が最終となり、次年度の第1回については日程が決まり次第連絡する説明を行った。

(5)閉会 (11:17)